



令和6年5月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

令和6年3月25日

上場会社名 ファーマライズホールディングス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 2796 URL http://www.pharmarise.com
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 秋山 昌之
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 沼田 豊 (TEL) 03-3362-7130
 四半期報告書提出予定日 令和6年4月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 令和6年5月期第3四半期の連結業績(令和5年6月1日~令和6年2月29日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
6年5月期第3四半期	40,674	5.0	863	△3.7	799	△10.2	177	△15.2
5年5月期第3四半期	38,730	0.4	896	△10.4	890	△12.2	208	△35.2

(注) 包括利益 6年5月期第3四半期 187百万円(△14.1%) 5年5月期第3四半期 217百万円(△32.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
6年5月期第3四半期	17.22	16.48
5年5月期第3四半期	22.24	16.89

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
6年5月期第3四半期	26,425	7,954	29.0
5年5月期	23,421	6,987	28.5

(参考) 自己資本 6年5月期第3四半期 7,664百万円 5年5月期 6,673百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
5年5月期	—	0.00	—	14.00	14.00
6年5月期	—	0.00	—		
6年5月期(予想)				20.00	20.00

(注) 1 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2 令和6年5月期(予想) 期末配当金の内訳 普通配当 14円00銭 記念配当(創業40周年記念配当) 6円00銭

3. 令和6年5月期の連結業績予想(令和5年6月1日~令和6年5月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	54,086	4.0	1,056	△26.5	978	△31.6	168	△49.4	16.01

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料8ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項」をご覧ください。

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 ④ 修正再表示 : 無

- (4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
 ② 期末自己株式数
 ③ 期中平均株式数(四半期累計)

6年5月期3Q	12,060,381株	5年5月期	9,746,645株
6年5月期3Q	817,166株	5年5月期	321,100株
6年5月期3Q	10,282,536株	5年5月期3Q	9,392,184株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

当社では令和5年9月29日付で譲渡制限付株式報酬として109,870株の当社普通株式を新株式として発行しております。また、同年11月13日付でAG2号投資事業有限責任組合による転換社債型新株予約権付社債の転換に伴い2,203,866株の当社普通株式を新株式として発行しております。連結業績予想における「1株当たり当期純利益」の分母である期中平均株式数の算定にあたっては、当該発行済株式数の増加を反映させて、算定を行っております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（令和5年6月1日～令和6年2月29日）におけるわが国経済は、雇用と所得状況の改善基調が見られ、各種政策の効果もあり、緩やかな回復が続くと期待されています。しかしながら、世界的な金融引き締めの影響や中国経済の不確実性など、海外景気の悪化がわが国の経済を押し下げるリスクがあります。また、物価上昇、中東情勢、金融市場の変動などの影響に十分な注意が必要です。さらに、令和6年1月に発生した令和6年能登半島地震の経済への影響も留意すべき状況です。

こうしたなか、当社グループは令和3年12月24日に「中期経営計画L S G（Leading to Sustainable Growth）2024」を公表し、株主価値の更なる向上を目指し、競争力を強化し成長していくため、①投資家に選ばれる会社になるための取り組み強化、②調剤事業を核とした事業展開による収益獲得強化、③経営基盤の更なる強化による収益構造の改善を推進しております。

こうした取り組みのなか、当社は令和5年11月に株式会社スズケンと資本業務提携をし、相互の経営資源やノウハウを組み合わせ、双方の強みや機能を融合させることで、共に社会課題を解決する新たな付加価値の創造を目指して取り組みを開始しております。

また、新たに、令和6年1月末にGOOD A I D株式会社を当社グループの一員として迎え入れました。両社の経営資源の相互活用、共同事業などを通じて、それぞれの事業の強化、拡充、発展を図る等のシナジー効果が見込まれます。

当第3四半期連結累計期間における業績は、売上高40,674百万円（前年同期比5.0%増）、営業利益863百万円（前年同期比3.7%減）、経常利益799百万円（前年同期比10.2%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は177百万円（前年同期比15.2%減）となりました。

売上高につきましては、応需処方せん枚数回復に伴う調剤売上高の増加、及びドラッグストア並びにコンビニエンスストア部門の売上回復により、前年同期比増収となりました。

利益面においては、物販事業の損益は大きく改善しているものの、調剤薬局事業における積極的なM&Aの実施による販管費の増加等を主な要因として営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益ともに前年同期比で減益となりました。

セグメント毎の業績は以下の通りであります。

（調剤薬局事業）

当第3四半期連結累計期間における調剤薬局事業の業績は、薬価改定の影響はあったものの、新型コロナウイルス感染症の影響による受診抑制の緩和や応需処方せん拡大の取り組み等を要因とした取扱処方せん枚数の増加を主因として、売上高は33,074百万円（前年同期比4.9%増）となりました。利益面においては、技術料の算定は順調に進展しているものの、当期に実施したM&Aや新規出店等による販管費の増加、仕入環境の変化及び薬価改定の影響を要因としてセグメント利益は1,036百万円（前年同期比8.2%減）となりました。同期間における調剤薬局店舗は57店舗増加、5店舗減少で、当社グループが運営する店舗数は352店舗となりました。増加した店舗は、新規開局に加えて、株式譲受により取得したGOOD A I Dグループ、有限会社ミット、三協医療薬品株式会社、及び株式会社佐々浪ファーマシーの店舗取得になります。

薬局運営面につきましては、①超高齢社会に対応すべく医療・介護・ヘルスケアを推進し、かかりつけ薬局として地域医療に貢献するという使命を追求、②当社独自の認定資格ヘルシーライフアドバイザーによる「からだ・こころ・くらしのウェルネス」をテーマに国民の健康維持・増進活動を支援、③業務のセンター化による効率化とDX化によるオンライン服薬指導推進、④電子お薬手帳ポケットファーマシーとLINEを連携させることによる処方せんのメール送信利用者の拡大、に取り組んでおります。

なお健康サポート薬局は当第3四半期連結会計期間末時点で77店舗（前年度末比5店舗減）となり、地域連携薬局は116店舗（前年度末比1店舗減）となりました。また、専門医療機関連携薬局につきましては、2店舗の認定を取得いたしました。

（物販事業）

当第3四半期連結累計期間における物販事業の業績は、売上高は6,171百万円（前年同期比7.1%増）、セグメント損失は45百万円（前年同期比124百万円増）となりました。これはドラッグストア及びコンビニエンスストア部門において、コロナ影響の低下を背景とした外出頻度の高まりによる来店顧客数増加が主たる要因であり、化粧品や一般用医薬品の売上増加も利益面の進捗へと繋がりました。

今後は、同部門においてDX化やeコマースに対する取り組みも進めてまいります。

また、同期間における調剤を併設しない本セグメントの当社グループが運営する店舗数は前年度末比1店舗減少の45店舗（調剤薬局を併設している12店舗を含めると57店舗）となりました。

（医学資料保管・管理事業）

当第3四半期連結累計期間における医学資料保管・管理事業の業績は、主に医療機関における経費削減の動きから紙カルテ等の保管年数の短縮化の影響を受け、売上高は456百万円（前年同期比6.0%減）、セグメント利益は33百万円（前年同期比41.0%減）となりました。一方で全国の病院において老朽化や業務効率化のための建替・移転が活発に行われていること等を背景として、医学資料の院外保管・管理のニーズは継続的に発生していることから、それらの獲得と新たなサービス提供に向けた営業活動を積極的に展開しております。

（医療モール経営事業）

当第3四半期連結累計期間における医療モール経営事業の業績は、売上高は378百万円（前年同期比0.1%増）、セグメント利益は減価償却費が減少したことで83百万円（前年同期比18.5%増）となり、安定的に推移しております。

（その他）

当第3四半期連結累計期間におけるその他事業の業績は、システムインテグレーション事業及び医療関連ITソリューション事業における増収を主要因として売上高は593百万円（前年同期比3.4%増）となりました。一方で有料職業紹介事業が前期の第3四半期が好調だったことの反動で減益となったこと等によりセグメント利益は5百万円（前年同期比84.2%減）となりました。

（2）財政状態に関する説明

（資産）

当第3四半期連結会計期間末における資産の残高は26,425百万円（前連結会計年度末比3,004百万円増）となりました。主な要因は、未収入金が2,268百万円（前連結会計年度末比1,143百万円減）となった一方で、商品及び製品が3,256百万円（前連結会計年度末比1,031百万円増）、投資有価証券が2,781百万円（前連結会計年度末比2,699百万円増）となったことによるものであります。

（負債）

負債の残高は18,470百万円（前連結会計年度末比2,037百万円増）となりました。主な要因は、その他（流動負債）が990百万円（前連結会計年度末比701百万円減）、1年内償還予定の社債が全額償還及び転換（前連結会計年度末比1,482百万円減）となった一方で、長期借入金が8,300百万円（前連結会計年度末比3,083百万円増）、買掛金が4,917百万円（前連結会計年度末比664百万円増）となったことによるものであります。

（純資産）

純資産の残高は7,954百万円（前連結会計年度末比966百万円増）となりました。主な要因は、1年内償還予定の社債の転換により資本金が1,961百万円（前連結会計年度末比662百万円増）、資本剰余金が2,177百万円（前連結会計年度末比624百万円増）となったことによるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

令和6年3月25日付で発表いたしました「令和6年5月期通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」の通り、最近の業績の動向等を踏まえ、令和5年12月25日付で公表いたしました令和6年5月期連結業績予想を修正してございます。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (令和5年5月31日)	当第3四半期連結会計期間 (令和6年2月29日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,742	5,164
売掛金	611	642
商品及び製品	2,225	3,256
原材料及び貯蔵品	65	73
未収入金	3,412	2,268
その他	320	361
貸倒引当金	△6	△6
流動資産合計	11,372	11,761
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,902	2,963
土地	2,587	2,609
その他（純額）	519	504
有形固定資産合計	6,010	6,077
無形固定資産		
のれん	2,748	2,509
その他	502	538
無形固定資産合計	3,250	3,047
投資その他の資産		
投資有価証券	82	2,781
その他	2,858	2,949
貸倒引当金	△152	△192
投資その他の資産合計	2,787	5,538
固定資産合計	12,048	14,663
繰延資産	0	—
資産合計	23,421	26,425

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (令和5年5月31日)	当第3四半期連結会計期間 (令和6年2月29日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	4,252	4,917
1年内償還予定の社債	1,482	—
1年内返済予定の長期借入金	2,008	2,263
未払法人税等	333	231
賞与引当金	45	279
店舗閉鎖損失引当金	21	42
その他	1,691	990
流動負債合計	9,835	8,724
固定負債		
長期借入金	5,216	8,300
退職給付に係る負債	791	898
資産除去債務	111	120
その他	478	426
固定負債合計	6,598	9,746
負債合計	16,433	18,470
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,298	1,961
資本剰余金	1,553	2,177
利益剰余金	4,014	4,059
自己株式	△210	△550
株主資本合計	6,655	7,647
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△0	—
退職給付に係る調整累計額	18	17
その他の包括利益累計額合計	17	17
新株予約権	208	208
非支配株主持分	105	81
純資産合計	6,987	7,954
負債純資産合計	23,421	26,425

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 令和4年6月1日 至 令和5年2月28日)	当第3四半期連結累計期間 (自 令和5年6月1日 至 令和6年2月29日)
売上高	38,730	40,674
売上原価	32,717	34,219
売上総利益	6,013	6,455
販売費及び一般管理費	5,116	5,592
営業利益	896	863
営業外収益		
受取利息	1	0
受取配当金	1	0
受取手数料	20	13
受取賃貸料	12	12
その他	21	11
営業外収益合計	57	39
営業外費用		
支払利息	40	42
支払手数料	8	42
賃貸原価	8	6
その他	4	10
営業外費用合計	62	102
経常利益	890	799
特別利益		
固定資産売却益	1	0
店舗閉鎖損失引当金戻入額	16	—
補助金収入	61	41
投資有価証券売却益	—	19
特別利益合計	80	61
特別損失		
固定資産売却損	5	0
固定資産除却損	31	4
減損損失	46	16
固定資産圧縮損	61	35
貸倒引当金繰入額	—	41
賃貸借契約解約損	104	3
特別損失合計	248	100
税金等調整前四半期純利益	722	761
法人税等	503	573
四半期純利益	218	187
非支配株主に帰属する四半期純利益	9	10
親会社株主に帰属する四半期純利益	208	177

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 令和4年6月1日 至 令和5年2月28日)	当第3四半期連結累計期間 (自 令和5年6月1日 至 令和6年2月29日)
四半期純利益	218	187
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	0	0
退職給付に係る調整額	△0	△1
その他の包括利益合計	△0	△0
四半期包括利益	217	187
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	208	176
非支配株主に係る四半期包括利益	9	10

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、令和5年11月13日付で、AG2号投資事業有限責任組合より第1回無担保転換社債型新株予約権付社債の一部について権利行使を受け、新株へ転換し、資本金及び資本剰余金がそれぞれ626百万円増加いたしました。これを主な理由として、当第3四半期連結累計期間において資本金が1,961百万円、資本剰余金が2,177百万円となっております。

また、令和6年1月11日開催の取締役会決議に基づき、自己株式496,000株の取得を行いました。この取得等により、当第3四半期連結累計期間において自己株式が340百万円増加し、550百万円となっております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(セグメント情報等)

前第3四半期連結累計期間(自 令和4年6月1日 至 令和5年2月28日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注)3
	調剤薬局 事業	物販事業	医学資料 保管・ 管理事業	医療 モール 経営事業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	31,532	5,760	485	378	38,156	573	38,730	—	38,730
セグメント間の内部売上 高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	31,532	5,760	485	378	38,156	573	38,730	—	38,730
セグメント利益又は損失 (△)	1,129	△170	56	70	1,086	37	1,123	△226	896

(注) 1 その他には、報告セグメントに含まれない人材派遣事業、製薬企業等向けのシステムインテグレーション事業等が含まれております。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額△226百万円は、報告セグメントに配分していない全社費用であります。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

調剤薬局事業において、減損損失を46百万円計上しております。

当第3四半期連結累計期間(自 令和5年6月1日 至 令和6年2月29日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注)3
	調剤薬局 事業	物販事業	医学資料 保管・ 管理事業	医療 モール 経営事業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	33,074	6,171	456	378	40,081	593	40,674	—	40,674
セグメント間の内部売上 高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	33,074	6,171	456	378	40,081	593	40,674	—	40,674
セグメント利益又は損失 (△)	1,036	△45	33	83	1,107	5	1,113	△250	863

(注) 1 その他には、報告セグメントに含まれない人材派遣事業、製薬企業等向けのシステムインテグレーション事業等が含まれております。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額△250百万円は、報告セグメントに配分していない全社費用であります。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

調剤薬局事業において、減損損失を16百万円計上しております。